

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.16、 No.1

テラヘルツテクノロジーフォーラムの運営、および、IRMMW-THz
2018 の準備状況について

テラヘルツテクノロジーフォーラム 会長 谷正彦

先日、中国の湖南省長沙で開催された *The 9th International Symposium on Ultrafast Phenomena and Terahertz Waves* (ISUPTW 2018, April 24-26, 2018, , Changsha, Hunan, China) という会議に参加してまいりました。OSA との共催で、2年に一度中国国内で開催されており、中国以外の国から著名な研究者も招かれていましたが、運営、参加者のほとんど中国人ということもあり、中国での超高速現象およびテラヘルツ波に関する研究開発の現状を伺い知ることができました。この会議の参加者数は 300 名以上で、Plenary 講演 8 件、Key Note 及び Invited 講演 60 件、一般 Oral 講演 21 件、Poster 講演 95 件という構成でした。また 20 近い企業展示も行われており、大変盛況でした。中国では現在 300 近い研究グループがテラヘルツ科学と技術について主テーマに研究を行っており、特に Key Laboratories と称される研究機関には、国が戦略的に研究資金を投入しているようです。すでに中国は研究コミュニティの規模と研究資金面では他国を圧倒している状況にあると言えます。論文発表数においても状況は同じです。一方、日本国内では、研究において中心的な役割を担う大学の運営費交付金などの基盤的経費は、学生数の減少と相まって、年々減らされており、厳しい状況が続いています（競争的資金が増えて、研究費全体の規模は変わっていないという説もありますが、研究環境が厳しくなっていることは確かでしょう）。そのため、日本の研究者が国際的な研究開発競争に伍していくためには、限られた人員と資金で、知恵を絞り、工夫をする必要があります。テラヘルツテクノロジーフォーラムでも現在の状況に危機感を持っており、理事会メンバーが本フォーラムの機能向上、すなわち会員サービス向上と運営の効率化について協議を重ね、改善の努力を行っています。テラヘルツ技術に関する文献情報の会員向けメール配信は、その取組の一つです。また、来年度以降、より機能的、効率的な運営を目指した組織改編を行う予定です。本フォーラム運営改善と国内のテラヘルツ波科学技術の研究コミュニティの活性化のために、会員の皆様からのご意見をぜひ取り入れたいと考えておりますので、事務局あるいは会長宛てに意見、提案を頂けるとありがたく存じます。

本フォーラムが特別協賛し、私が開催地組織委員会 (LOC) の共同議長を務めております、*The 43rd International Conference on Infrared, Millimeter and THz Waves* (IRMMW-THz 2018, Sep 9-14, 2018, 名古屋国際会議場) の準備状況について、本紙面をお借りして簡単に報告させていただきます。一般投稿論文の投稿を 4 月 7 日に締切しましたが、Plenary や Invited を除き、23 カ国 (日本含む) から 771 件の投稿がありました。国別で見ると中国からの投稿が最も多く、195 件、次いで日本 159 件、ロシア 90 件、ドイツ 76 件、米国 43 件、フランス 39 件、イギリス 28 件という順になっています。毎年投稿数にほぼ比例した参加者数があることから、今年の IRMMW-THz 2018 でも 700 人前後の参加者数が見込まれます。本国際会議を成功させるために、LOC メンバー、Technical Program Committee メンバー、事務局が一丸となって、準備を進めてまいりますが、本フォーラムの会員の皆様にも引き続き支援をお願いする次第です。